



2023年8月2日

各 位

会 社 名 立川ブラインド工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 池 崎 久 也
(コード番号 7989 東証プライム市場)
問合せ先 取締役管理本部長 小 野 寿 也
(TEL. 03-5484-6142)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社は、2023年8月2日開催の取締役会において、資本コストや収益性、資産効率、および株価状況についての現状評価を行い、改善に向けた方針・取組みを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 現状評価

当社は、建築物内外の生活環境の改善に努め、高付加価値製品の拡販等により主力の室内外装品関連事業の収益力を強化することで、2021年12月期まで13期連続の経常利益増益を達成しました。

2022年12月期は、原材料高騰等の影響を受け減益となったものの、2023年から3ヶ年の中期経営計画「タチカワビジョン 2025 ～継続と進化～」を発表し、再び増益を継続するよう取組みを強化しております。

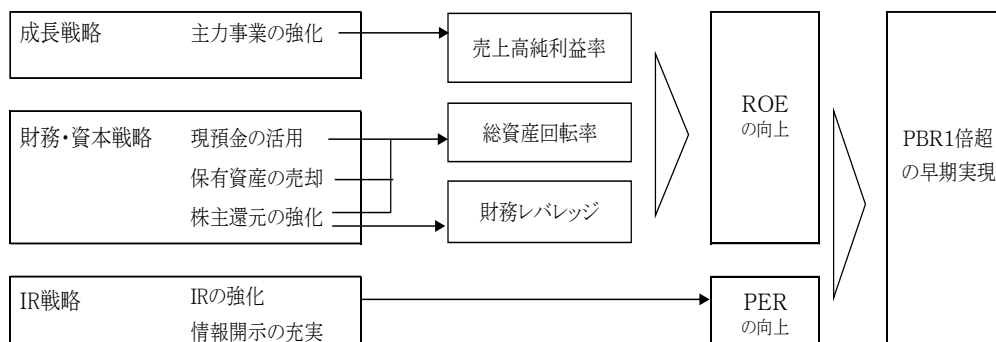
現状評価として、ROEは13期連続増益の中で7%台まで向上し、これを維持しておりましたが、2022年12月期は減益に転じたことで、ROEを低下させています。資産効率の面では、欠品防止対策としての在庫積み増しやBCP対策としての設備投資を積極的に進めてきたことによる棚卸資産や固定資産の増加等により、総資産回転率が年々減少している状況です。

また、当社株式の売買高が他の上場企業に比べて低く推移しており、株式の流動性が低い状況にあることも株価低迷の要因と認識しております。

	2018年 12月期	2019年 12月期	2020年 12月期	2021年 12月期	2022年 12月期
売上高 百万円	39,066	42,054	39,980	41,236	41,296
経常利益 百万円	3,747	4,443	4,615	4,663	4,005
当期純利益 百万円	2,320	2,762	2,900	2,868	2,520
売上高当期純利益率 %	5.9	6.6	7.3	7.0	6.1
総資産回転率 回転	0.75	0.77	0.70	0.70	0.67
財務レバレッジ 倍	1.50	1.49	1.45	1.43	1.43
ROE %	6.7	7.6	7.5	7.0	5.8
株 価 円	1,079	1,305	1,254	1,136	1,130
PBR 倍	0.60	0.67	0.61	0.52	0.49

2. 改善に向けた方針

今回の現状評価で認識した当社の課題を踏まえ、主力事業の強化や資産効率の改善、株主還元の強化、およびIRの強化に取り組み、資本コストや株価を意識した経営を実現していくことで、PBR1倍超の早期実現を目指してまいります。



3. 具体的取組み

(1) 成長戦略

- 昨年 低下した収益性を回復させ、更に向上させるため、メーカーの原点に立ち返り、「マーケティング」「技術力」「生産体制」を強化してまいります。

マーケティング の継続・進化	「安心・安全・快適・環境」を基本とした製品開発 電動製品、間仕切製品による新たな快適な住空間提案と販促 リアルとデジタルを融合させたマーケティングの進化 利益体質強化に向けた基盤づくり
技術革新	技術研究棟の新設と活用 メーカーとしての開発基盤強化
生産体制の強化	生産拠点の整備 拠点毎の生産品目見直し

連結業績目標

	2022年12月期 実績	2023年12月期 業績予想	2025年12月期 目標
売上高	413億円	428億円	445億円
営業利益	38億円	41億円	44億円
経常利益	40億円	43億円	46億円
当期純利益	25億円	27億円	29億円

中期経営計画「タチカワビジョン 2025 ～継続と進化～」の詳細につきましては、下記をご参照ください。

https://www.blind.co.jp/_assets/img/company/ir/library/tyuukikeieikeikaku23-25.pdf

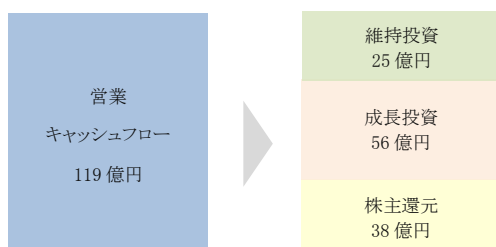
(2) 財務・資本戦略

① 現預金の活用

- ・下記のキャッシュアロケーションを適切に管理し、事業活動で獲得したキャッシュを「成長投資」や「株主還元」に戦略的に配分することで、事業の成長と資本収益性の向上を図ってまいります。

キャッシュアロケーション

2023-2025年 計画



② 保有資産の売却

- ・政策保有株式については、定期的に取り締役会で保有意義を確認しており、2020年の保有銘柄27銘柄から、現在14銘柄と縮減を進めております。今後も投資先との協議を含め、縮減について検討を進めてまいります。
- ・将来の成長に向けた設備投資を進める一方で、現在保有する設備につきましては、稼働状況を定期的に確認し、稼働率の低い設備については、売却を検討・推進してまいります。

③ 株主還元の強化

- ・当社は株主還元を重要な経営課題と認識しております。利益配当につきましては配当水準の維持または増配を継続することを基本方針とし、2023年から2025年の中期経営計画の期間中は「年5円増配」を継続してまいります。
- ・将来的には、利益成長に沿った持続的増配の方針を堅持しつつ、また、経営環境に応じ自己株式の取得を進めていくことで、総還元性向50%の実現を目指してまいります。

(3) IR戦略

- ・投資家向け決算説明会やIRミーティング等、株主・投資家との対話の機会を拡充し、建設的な対話に努めることで、当社の事業活動や各種取組みに対するご理解を深めていただくとともに、株主・投資家からの意見を当社の経営に反映し、企業価値向上に繋げてまいります。
- ・当社の認知度を向上させるため、サステナビリティ活動への取組みや非財務活動等の情報開示を積極的に行うとともに、ホームページへの情報掲載を充実させ、動画の活用を進めることで、株主や投資家、学生等への情報発信を充実させてまいります。

以上

- ・ 当社のPBRは0.5倍程度、ROEは2022年12月末実績で5.8%。
- ・ ROEを分解すると、特に総資産回転率・レバレッジの水準が低く、資産の有効活用や株主還元等が課題。

$$\begin{array}{ccc}
 \mathbf{PBR} & = & \mathbf{ROE} \times \mathbf{PER} \\
 0.5\sim 0.6\text{倍} & & 5.8\% \quad 8.5\sim 9.5\text{倍}
 \end{array}$$

項目	現状	対策
収益性	売上高純利益 6.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主力事業の強化
資本効率性	総資産回転率 0.67回転	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現預金の活用 ・ 保有資産の売却
財務健全性	財務レバレッジ 1.43倍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株主還元強化

・ IRの強化

中期経営計画達成に向けた施策の実行

マーケティングの継続・進化

- ・「安心・安全・快適・環境」を基本とした製品開発
- ・電動製品、間仕切製品による新たな快適な住空間提案と販促
- ・リアルとデジタルを融合させたマーケティングの進化
- ・利益体質強化に向けた基盤づくり

技術革新

- ・技術研究棟の新設
本年下期着工予定
環境負荷低減、新技術、新素材等をテーマにした研究開発を推進
- ・メーカーとしての開発基盤強化

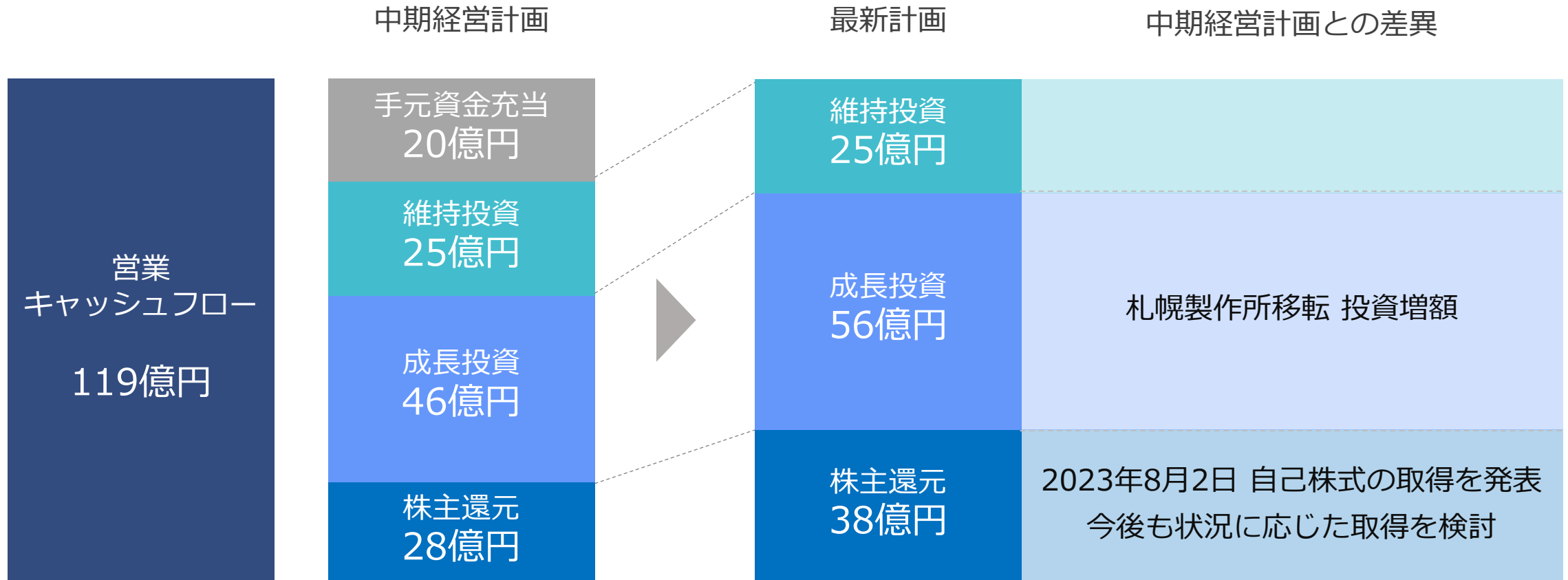
生産体制の強化

- ・生産拠点整備
2025年の札幌製作所の移転と物流拠点の統合に向け本格始動
- ・拠点毎の生産品目見直し

主力の室内外装品関連事業を強化

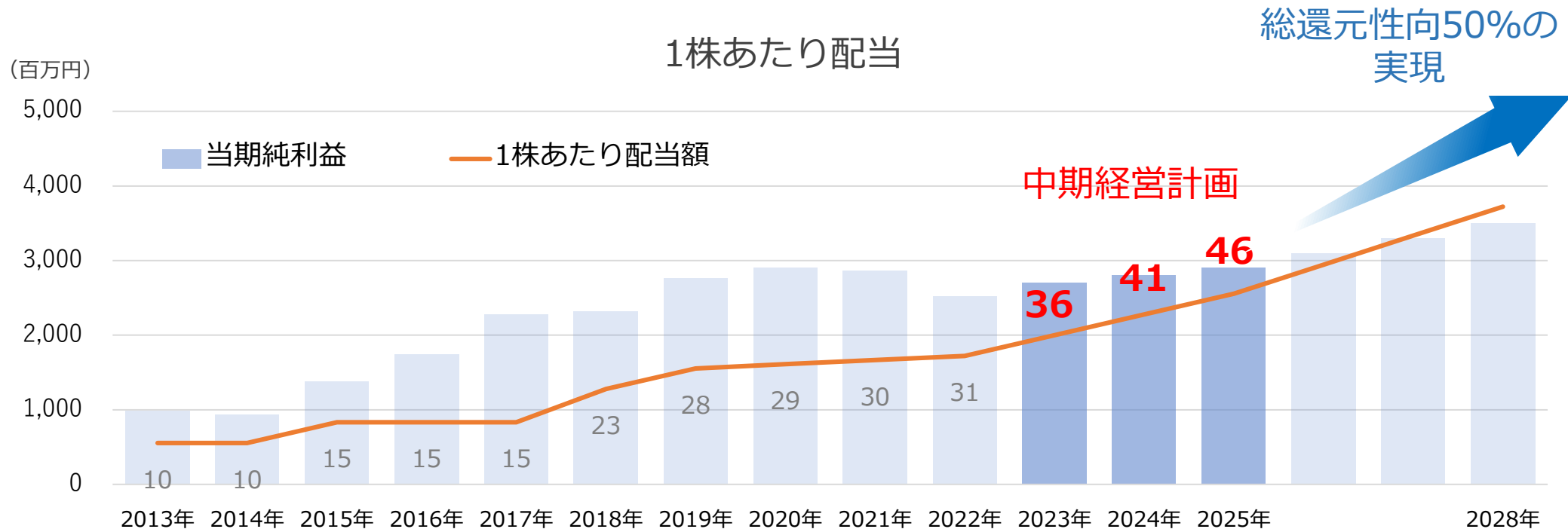
キャッシュアロケーション

2023年から2025年までの連結営業キャッシュイン119億円を原資に、株主還元と成長投資を強化



株主還元の方針

- ・ 減配せず、配当水準を維持 または 増配を継続。
- ・ 2023-25年の中期経営計画期間中は、**年5円増配**を継続。
- ・ 将来的には、増配を維持し、経営環境に応じ自己株式の取得を進めることで、**総還元性向50%**の実現を目指す。



ステークホルダーとのコミュニケーション充実

決算説明会

- ・ 上期、通期の年2回開催。

投資家向け説明会・IRミーティング

- ・ 機関投資家向け説明会、個人投資家向け説明会の実施。
- ・ IRミーティングは、取材の都度個別に開催。

開示情報の充実

ホームページのIR情報充実

- ・ IRページを更新・充実させ、ホームページを基軸に情報発信。

サステナビリティ

- ・ サステナビリティの取組み強化と非財務情報の積極的開示。
- ・ 統合報告書の発行。